

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年9月19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100804		
法人名	医療法人社団 啓和会		
事業所名	グループホーム ひぬま	ユニット名	1号館
所在地	〒311-3124 茨城県東茨城郡茨城町中石崎159-1		
自己評価作成日	平成25年4月30日	評価結果 市町村受理日	平成25年9月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0873100804-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年7月11日	評価確定日	平成25年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

涸沼湖畔に面しており、涸沼を眺める事ができます。各ユニットのリビングからは、涸沼を一望でき四季折々の変化を楽しめます。また、同グループのグループホームが近隣にあり合同で行事を行い交流を図っています。連携病院の往診や看護師がおり、入居者様の体調について相談ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の目の前には涸沼があり、毎日涸沼からの日の出を楽しめるなど、恵まれた自然環境となっている。

町内会に加入して事業所周辺の清掃活動をしたり、町の祇園祭りや敬老会、福祉大会などの行事に積極的に参加したりしている。

日頃から近隣住民が野菜のお裾分けや白鳥の飛来を知らせに事業所に立ち寄るなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流しているため、区長をはじめ近隣住民が事業所の良き理解者となり、困り事の解決のための協力者となっている。

毎月事業所便りを家族等へ送付する際に、写真や手紙を添えて利用者の日常の様子や体調などを報告し、家族等との信頼関係を築けるよう努めている。

利用者が運営推進会議に参加したり、職員の内部研修にも参加したりできるよう機会を設けており、その際職員は、利用者が自由に発言ができるような雰囲気づくりに努めている。

利用者は居室にテレビやタンス、机、本棚、寝具類などの使い慣れた物品を持ち込んでいるほか、時計や自作のカレンダー、家族の写真、カセットデッキ、ポータブルラジオ、ぬいぐるみなどを置き、生活感を取り入れながら居心地よい居室づくりをしている。

職員は利用者の意向を尊重し、編み物が好きな利用者の場合は居室に道具一式を持ち込んでもらい、趣味を活かして安心して暮らせるよう支援している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの際、全員で理念を唱和しています。理念に沿って介護を職員一同心がけています。	「ご利用者、ご家族及び地域に開かれた施設を目指します」など、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を作成するとともに、事業所の理念をより具体化したユニット毎の理念を作成し、ユニット毎の事務所に掲示している。 管理者と職員は理念を朝礼時に唱和して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、利用者と職員で参加し交流をして地域とのつながりを大切にしています。	利用者や職員は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしているほか、町内会に加入して年2回事業所周辺の清掃活動をしたり、町の祇園祭りや敬老会、福祉大会などの行事に参加したりしている。 事業所の敬老会やクリスマス会、ボランティアによる演劇、人形劇などの行事に地域の人々を招待しているほか、書道教室の先生やリハビリ体操のボランティアが来訪している。 日頃から近隣住民が野菜のお裾分けや白鳥の飛来を知らせに事業所に立ち寄るなどしており、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員・区長さんを通じ認知症を地域の方に理解していただけるよう、施設行事へのお誘いをして活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて、利用者状況や対応の報告、また参加者からの意見や提案を検討し職員全体で改善を行っています。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、町職員、地域包括支援センター職員、区長、民生委員を委員として2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の状況や行事などを報告したり、外部評価で明らかになった課題について話し合ったりしている。 会議で町職員や区長から得た祭りなどの地域行事の情報を、外出支援に取り入れたりしてサービスの向上に活かしている。 東日本大震災の影響で、事業所が建っている土地が地盤沈下をしてしまい、近くの涸沼の堤防が決壊する可能性があることを運営推進会議で相談したり、事業所前の道路に竹がしなだれて通行し難いことを相談したところ、委員が行政に対策を講じるように働きかけてくれ、その結果、涸沼の堤防が整備されたり竹が伐採されるなど、改善につながっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡事項、提出物の内容を電話、電子メールで確認し入居者状況や事故報告をし、また認知症ケア研修の取組みを伝え連携を図っています。	町担当者が毎回運営推進会議に出席している。管理者は毎月町担当者に電話をかけたり訪問したりして事業所の状況を報告するとともに、事業所のサービスの取組みや実情を伝えながら協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議での学習会で学び、職員は身体拘束をしないよう利用者が安全な生活が出来るよう工夫し支援をしています。また、止む追えない場合は家族との話し合いをし、同意を得るようにしています。	利用契約書に「緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行わないものとする」ことを明記するとともに、身体拘束排除マニュアルを作成し、内部研修を実施している。全職員が身体拘束の弊害を正しく理解するとともに、利用者を支援する中で身体拘束についての気付きを教え合い、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアの実践に努めている。やむを得ず身体拘束をする場合に備え、家族等への説明書や同意書、経過観察記録、検討記録などの書類を準備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のない介護を目指し、施設内外の研修に参加し全体で話し合い、防止について意識を高めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外での研修会への参加で全職員が学んでいます。また、必要に応じて制度の活用をしております。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず、契約の時は契約書を読み上げ説明し理解・納得をしていただけるよう対応しています。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の時や、運営推進会議での家族代表者から気づいた点、要望を伺っています。また、各玄関に意見箱を置いています。	意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは電話や面会時に話を聴くほか、利用者や家族等が毎回運営推進会議に出席しており、意見や要望を出せる機会となっている。 毎月家族等へ事業所便りを送付する際に、写真や手紙を添えて利用者の日常の様子や体調などを報告し、意見や要望が出易くなるよう努めている。 行事の時にアンケート用紙を配り、意見や要望を汲みあげているが、参加した一部の人に限られている。	より多くの家族等の意見を汲みあげられるよう、家族等全員に無記名のアンケートを実施することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議で話し合う機会があり、随時意見の提案の検討ができます。	管理者は月1回全体会議や月2回ユニット毎の会議を開催するほか、年2回職員面談を実施し、職員が意見や要望、提案を出せる機会を設けている。 職員の要望を受け、男子用トイレを使い勝手が良くなるようリフォームをしたり、厨房や職員用更衣室に扇風機を設置して環境の改善を図ったりしている。 管理者は職員の意見や提案を受け、利用者の外食に付き添った際の職員の食費軽減について検討したり、東日本大震災により壊れた潤沼の棧橋を再び設置することについて行政に働きかけたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人別に目標を掲げ取り組み、本人と上司が評価し人事考課で、賞与・昇給への反映があります。また、資格取得の支援があります。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の理解や技術の向上のため研修会への参加をしています。各委員会（食材・レクリエーション・環境・感染）を設け、責任ある対応への向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他市町村のグループホームや同系列のグループホームとレクリエーションを通しての交流をし向上を図っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人と面接をし施設での生活等を説明し不安のないようにしています。困りごとの訴えがある場合では、話を良く聴き信頼関係が出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談で困っている事や希望を伺い、また不安に思っている事については、話を良く聴く事で安心頂けるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりの身体状況、生活歴、環境を見極め必要なサービスが利用できるよう話し合っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として本人と接し、一番近くで寄り添う者として関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連携を保ち、本人の日常生活や健康を共に支援できるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を出来る限り尊重し、家族に協力していただき、友人、知人との交流が出来るよう働きかけています。	利用者の親戚や知人が訪ねられており、来訪時にはお茶の接待をしてゆっくり話ができる環境づくりに努めている。 家族等の協力を得たり、職員が付き添ったりして墓参りや法事への参加、美容院の継続利用ができるよう支援をしている。 近隣にある他法人のグループホームとは、合同の書道教室を交互に実施したり、それぞれの事業所の行事に参加し合ったりして交流を図っており、利用者同士が馴染みの関係を築いている。 以前から交流のあった宗教を同じくする友人の来訪を受け入れ、馴染みの人とのつながりが途切れないよう努めている。 利用者が入居前から利用していたマッサージ師に来訪してもらい、継続して利用ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごせる時間は場面作りを提供し、職員が調整役となり支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所された方のご家族への電話や、お亡くなりになった方への仏前へのお参りをしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族から生活に関する希望の聴きとりをして、ケアプランに取り入れています。	職員はアセスメントシートを活用して利用者の生活歴や思いを把握するとともに、さりげなく話しかけて希望や悩みなどを聴き、利用者の思いにそった支援に努めている。 思いを表わせない利用者の場合は家族等から話を聴いたり、話し方や表情、しぐさなどから思いを汲み取るように努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活歴を伺い、本人の状態に合った生活ができる環境を提供出来るよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、出来る事へのお手伝いをし、出来ない事への支援をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から意見や希望を伺い、アセスメントカンファレンスを行い本人に合った計画でケアし、また変更するなどして取り組んでいます。	介護計画は利用者や家族等の意向や利用者の生活面での課題、職員の意見を取り入れながら計画作成担当者を中心に作成し、家族等の来訪時に説明して同意を得ている。 毎月モニタリングを行うとともに、短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に見直すほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合には、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜ケアでの気づきを記録し、職員全員が情報を共有して、利用者の状況把握と生活支援をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じたサービスの提供に努め、家族都合でのショート利用や通院同行などをして取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアにより、リハビリ体操をしたり、書道教室に参加し楽しみを取り入れ支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、本人のかかりつけ医を伺い引き続き同じ医療機関の利用、または特に指定がない場合は、施設の協力病院に受診できるよう支援しています。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医を担当医としている。 協力医療機関への受診は職員が付き添い、家族等へは電話や面会時、事業所便りの送付時に報告している。 月2回から3回協力医療機関の医師による訪問診療があるほか、協力歯科医院による送迎付きの診療が受診できるよう支援している。 看護職員との連絡体制を確立しており、緊急時や夜間でも適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による健康管理を行っています。介護職員は、利用者の体調を伝えてアドバイスを受けています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的に面会し本人が安心して治療が出来るように支援しています。病院関係者との情報交換、アドバイスを受けスムーズに退院出来るように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化に応じて、終末期の在り方や重度化に関して、本人、家族の意向を確認しながら、医師、看護師、職員の対応方針の共有を図っています。	事業所は看取りの経験がある。重度化した場合や看取り介護に関する事業所の対応指針を作成し、事業所でできることとできないことを契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。管理者はマニュアルを作成して看取り介護に関する研修を実施するとともに、家族等や協力医療機関の医師と連携を図りながら、関係者全員で方針を共有して看取りを行う体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応が出来るようにマニュアルがあります。また救命研修会への参加をし体制強化に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導で年に2回の消火訓練・避難訓練があり、また毎月1回は防火管理者を中心に避難訓練をしています。災害時の避難場所の確保など、地域の協力体制を築いています。	年2回消防署立会いを含めた総合避難訓練を実施するとともに、月1回防火管理者を中心として夜間想定を含めた避難訓練を実施している。避難訓練後は課題や反省点を話し合っているが、話し合いの結果を記録に残すまでには至っていない。緊急連絡網を作成して事務室に掲示するとともに、災害の発生に備えて食糧や飲料水、懐中電灯、電池、軍手などを備蓄し、リストを作成して管理している。避難訓練に区長や民生委員、近隣住民の参加を得ている。	避難訓練で明らかになった課題や反省点など話し合った結果を記録に残し、次回の訓練に活かすことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、本人の生き方を否定しない対応に努めています。	契約時に個人情報の利用目的などが記載されている「個人情報保護に関する覚書」を提示し、家族等の同意を得ている。 職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。 面会記録は用紙を準備して訪問者毎に記入するとともに、個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、取り扱いには十分注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や態度を見守り、本人の意思を受け入れ自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いやペースを優先し、体調に合わせて日常生活を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張の美容、理容のサービスがあります。その人に合った整容、洋服選びには見守り寄り添い支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきをして、調理の準備をされたり、下膳や食器拭きを職員としています。外食会を設け楽しむ機会を提供しています。	献立は利用者の好みや苦手な食べ物を踏まえながら栄養士の職員が作成している。 近隣住民からのお裾分けの野菜や自家菜園で利用者が水やりなどをして育てた茄子やピーマン、トマトなどの野菜を食材に活用している。 寿司などの店屋物を取ったり、3ヶ月に1度外食したりして、食事に変化に富んだ楽しみなものとなるよう工夫している。 職員は利用者と一緒に会話をしながら和やかな雰囲気の中で食事ができるよう支援するとともに、利用者は能力に応じて野菜の皮むきなどの下ごしらえや配膳、下膳、食器拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分、食事量を記録しチェックしています。本人の望む食事の形態や体調に合わせて支援をしています。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に、利用者に合わせて口腔ケアを行って支援しています。義歯使用者は、夜間に洗浄を行っています。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の状態や体調に合わせた排泄ケアを行っています。自立困難な方へは、声かけをして時間排泄やトイレ誘導をして自立排泄への支援に努めています。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らいながら声かけやトイレ誘導をしている。 職員は利用者一人ひとりのおむつやパッドの使用を見直す取り組みをしており、寝たきりでおむつを使用していた利用者が布パンツを使用しながら歩いてトイレに行けるまでに改善している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を行って、水分補給をして頂いています。食事はゆっくり食べていただくよう支援しています。また、腹部マッサージの対応をします。困難時は、主治医へ相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各ユニットで曜日が異なっているため、希望に応じて入浴ができる支援をしています。また、菖蒲湯や柚子湯で季節感や香りを楽しんでいただけるよう努めています。	入浴は基本的に週2回と決まっているが、ユニット毎に入浴日が違うため、入浴日以外でも利用者の希望にそって入浴ができるよう支援している。 仲の良い利用者同士と一緒に入浴したり、季節毎に柚子湯や菖蒲湯を取り入れたりして、季節を感じながら楽しい気分が入浴ができるよう工夫している。 浴室に手摺を備え付けたり、シャワーチェアや滑り止めマットを使用したりして、安心して入浴ができるよう支援している。 入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら言葉かけの仕方を変えたり、時間をずらしたりして無理の無いように促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリハビリ体操や外気浴をして身体の代謝を図り心地よい休息が出来るようにしています。また夜間はホットミルクなどで安眠への支援に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人のファイルに保管し、通院内容を記録し症状の変化の確認を行っています。個人の薬入れを用意して誤薬のないよう、声かけし確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に合わせて、モップかけ、洗濯たたみ、新聞折りなど出来ることを活かして支援しています。また誕生会や、年間行事を提供し楽しんでいただけるよう支援に努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ユニットごとのドライブや食事会を計画して外出支援をしています。また、家族との外出や外泊は希望に応じて出掛けられています。	天気の良い日は中庭やベランダへ出て外気浴やリハビリ体操をしたり、利用者の希望や体調を考慮しながら、歩行が困難な利用者も車いすを使用して一緒に近隣の公園などへ散歩に出かけたりしている。 年間計画を立てて季節毎に花見や紅葉狩り、ぶどう狩りに出かけ、季節を味わえるよう支援している。 利用者は家族等の協力を得ながら外食や墓参りに出かけたり、自宅に外泊したりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者はいない為お金は預けていないが、買物がある時には職員同行、代行をして立替購入での支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症進行に伴い電話をかけたり、手紙のやり取りは難しくなっていますので、職員が代行して支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングソファで季節毎のひぬまを眺めて寛いでいます。また、清掃、換気、温度調整を行い安心・安全な空間づくりに努めています。	共用空間は十分な採光を取り入れるとともに、温度調節や換気をして居心地よく過ごせるよう配慮している。 玄関や居間、廊下には利用者が書道教室で書いた作品や行事の写真、季節の花を飾っている。 廊下に手摺やソファを設置したり、居間に新聞を置いたりして、生活感を取り入れながら利用者が安全な環境の中で寛いだ時間を過ごせるよう配慮している。 居間やベランダ、庭は潤沼に面しており、利用者は眺めを楽しみながら外気浴をしたり、お茶を飲むなどしたりして過ごしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファで各々が寛ぐことが出来るようにしています。一人で過ごしたい時には居室で寛げる自由な生活を支援しています。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた愛着のある布団、タンス、時計などを居室へ置き安心感をもって頂けるようにしています。壁には、本人が作成するマイカレンダーや写真を貼っています。	居室にはベッドやエアコン、洗面台、クローゼットが備え付けられている。 利用者はテレビやタンス、机、本棚、寝具類など、使い慣れた物品を持ち込んでいるほか、時計や自作のカレンダー、家族の写真、カセットデッキ、ポータブルラジオ、ぬいぐるみを置いて、生活感を取り入れながら居心地よい居室づくりをしている。 編み物道具一式を持ち込んで、趣味の編み物を楽しんでいる利用者もいる。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには、表札を用意してご自分の部屋がわかるように支援しています。トイレには、日常動作がスムーズに出来るように目印をつけています。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひぬま

作成日 平成25年9月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	より多くの家族等の意見を汲みあげられるよう、家族等全員に無記名のアンケートを実施することを期待する。	・入居者の家族と接し、多くの意見を伺うようにする	・事業所便りを送付する際に、半年に1回アンケート実施（家族の困りごとや要望など）	H25.12.31まで
2	35	避難訓練で明らかになった課題や反省点など話し合った結果を記録に残し、次回の訓練に活かすことが望まれる。	・安全確保と迅速な対応を行い、身につく訓練を行う	・秋の消防署指導での消火訓練・避難訓練と毎月の訓練を有意義に行い、課題や反省点を話し合い、記録に残す	H25.10.31まで
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。